

平成31年1月21日

南の風第85回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会

～ 女子決勝特集号Ⅳ ～

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

最後のクォーターです。

とにかくトヨタはディフェンスを全力で頑張り、これ以上離されないことです。そして何とか連続で得点し、流れを呼び込みタイミングの良い3Pシュートで猛追したいところです。

開始早々、トヨタはドリブルスクリーンからポップアウトした馬のミドルシュートが決まります。連続得点したいトヨタですが、JXは相手のシュートミスからリバウンドを取り、一気に走った岡本へのタッチダウンパスからドリブルシュートで得点し流れを渡しません。

食らい付きたいトヨタは、相手のポストへのパスカットから速い展開に持ち込み、三好はこの試合自身初めて、チームとして2本目の3Pシュートを決めます。JXは渡嘉敷がまたもゴール下でファウルをもらい、フリースローを2本沈めます。トヨタは負けじとエプリングがローポストで身体を張り、ターンシュートを確実に決めます。(17ポイント目)ここでトヨタは2-1-2のオールコートのゾーンプレスでプレッシャーを掛けます。一瞬戸惑ったJXですが、冷静にボールを運びます。ディフェンスが渡嘉敷を意識してダブルチームを仕掛けた瞬間、梅沢が空きゴール下シュートが決まります。

あきらめないトヨタは、エプリングがエンドラインドライブからのバックシュートで得点します。しかし、JXは渡嘉敷が右45°からの力強いドライブインシュートを豪快に決めます。連続得点が出来ないトヨタは点差を縮めることができません。《残り時間5分でトヨタ55対JX79》

このあとまたもJX石原の3Pシュートが決まり、流れを相手に渡しません。

残り時間が4分になったところでJXは7番林を投入します。これで少し前に交代した29番中村を含めスターターは宮澤と藤岡だけになりました。さらに32番宮崎や13番西山、5番の藤本を投入し経験を積ませます。一方トヨタは、33番ステファニーのローポストでのステップインシュート、交代した20番近藤や23番山本のドライブインが決まります。そして最後にトヨタの安間がドライブインシュートを沈めます。

しかし大勢に影響はなく、JXが86対65でトヨタを下し、6連覇を果たし通算23回目の優勝を飾りました。JX-ENEOS サンフラワーズのみなさん、優勝おめでとうございます！

私の感想です。

JXの強さは何と言っても、渡嘉敷、宮澤の中と外の得点力の高さです。渡嘉敷はペイントでのプレイは言うに及ばず、今シーズン3Pシュートにも果敢に挑戦し成果を上げつつあります。宮澤は3Pシュートの確率は折り紙つきですし、元々4番ポジションのプレイヤーですから、ペイントでのステップワークやドライブインにも長けています。この決勝で渡嘉敷31点、宮澤は17点の活躍でした。そして司令塔の吉田は今年控えからの出場ですが、絶妙のパスワークはいささかも衰えていません。特に渡嘉敷との合わせ(日本のホットライン)は観客を釘づけにします。他に岡本の3Pシュートと藤岡のドライブ、さらに進境著しい梅沢のインサイドプレイなど目を見張るものがあります。戦う相手にしてみれば、何処からでも点を取ることで出来るJXはたいへんやり辛いチームと言えます。